

武漢事務所週刊ニュース (2016. 2. 19-2016. 2. 25.)

2016年2月19日

湖北省第一回中国龍獅子舞大会が武漢市園林博覧会で開幕

全国から参加した15チームが華麗な技を競い合った

2月19日、湖北省第一回中国龍獅子舞大会が武漢市園林博覧会で幕を開けた。19から21日の3日間に全国から15チームが華麗な技を競い合い、元宵節に花を添える。

19日午前10時ごろには、オリンピックチャンピオン楊威選手も登場する予定。武漢体育学院、湖北大学、湖北龍獅子舞基地、宜昌、黄石、京山から8つの獅子舞チームが広東省、河南省からは7つの龍獅子舞チームが参加し、それぞれ自由演技、南獅子舞伝統舞い、高い柱の上での獅子舞い、伝統太鼓と伝統音楽展示などのプログラムで競う。そして参加チームは園林博覧会に出演し、祭りに花を添える予定。



龍舞・獅子舞の様子

2016年2月25日

日本の男児が武漢で骨折 医師は武漢で手術することを決めた

日本から来た11歳の男児が1年前にエンジニアである両親と一緒に武漢に移住し、インターナショナルスクールに通っていた。最近彼が転倒して骨折した際に、両親は当社彼を日本へ帰国させ手術するつもりだったが、武漢協和病院の医師と相談後、中国の医療技術を信じ、中国で手術することに決めた。

2月25日午前、男の子は授業の合間に右足を骨折した。けがの程度が重く、最初両親は武漢で簡単な応急処置を行った後、子どもを日本で治療させようと考えていた。協和病院の国際問診部では唐欣博士が彼と家族に対応した。唐医師はアメリカで長期にわたる留学経験があったため、流暢な英語でコミュニケーション取ることが出来る。

母親は当時を振り返り、中国の生活、特に病院で診察を受けるとき、最も問題になるのはうまくコミュニケーションがとれないことだったという。

更に重要だったのは、唐医師が紹介した手術の方法だった。提案された手術方法も日本と同じだったため、彼らは最終的に武漢に残して手術することに決めた。

2月26日午後2時に手術を開始し、僅か1時間で無事終了した。傷口は残らず出血は5MLに抑え、翌日男の子は退院し自宅療養となった。

情報によると、武漢協和病院国際問診部は去年 1 月に開設した。武漢公立医療機関初の全科涉外問診部で、在武漢外国人に医療サービスを提供する。国際問診部には全科が揃っており、内科、外科、婦人科、児童科など 40 科室により構成される。診療を担当する医師は病院の海外留学経験者の名医ばかりで、医療スタッフから看護師まで英語を流暢に話すことができる。